

南イタリアまちづくり調査報告

2018 8/24(金)~8/31(金)

隊員M

イタリアと言えば直ぐに美味しいイタリアン料理が頭に浮かぶ。

それも観光地で名高いアルベロベッロとアマルフィに行く、何と素敵なこと！

8/24(金)

成田発 13:15 ローマ、フィウミチーノ空港に1時間遅れで着く、予定していたバーリ行きの飛行機に乗れず、1時間後の最終便に乗ることが出来、バーリ着は2時間遅れの 23:30 となった。バーリからは予約をしていた車でアルベロベッロに着いたのは真夜中(24:30)になってしまった。しかしこれは運が良かったのではと思っています。(もし次の便がなかったり、満席で乗れなかったりしたら空港で一夜を過ごすのではないかと想像しました。たまには、こんな体験も良いかな・・・と思ったぐらいです。)アルベロベッロの宿は贅沢にもトゥルッリ(単数形だとトゥルッロ)、ワインでも飲みながらトゥルッリ生活を楽しみたかったが明日からの体力を考え早々と寝る。

アルベロベッロ泊

8/25(土)

初日はイトリア谷を囲む様に中世の小さな都市アルベロベッロ、ロコロトンド、チステルニーノ、マルティナフランカの旧市街めぐり。

アルベロベッロは皆さんご存知の円錐形のとんがり屋根の建物、今でも沢山残っていて、お土産屋さん、ホテル等に使われている。城壁に囲まれた町が多い中ここは城壁を持たない。

ロコロトンドは丸い場所の意味、城郭の様にいくつもの三角屋根の建物で囲まれている「イタリアの最も美しい村」でもある。

どこの家にも窓やポーチにお花を綺麗に植えて、美意識の高さには驚きます。

チステルニーノ、城壁で囲まれ、白い壁、道は狭く迷路のようになっていて、大きな門、小さな門があり、中世の時は夕方になると城門が閉じられるそうです。

ランチの時、ガイドさんから「ピザは夜の食べ物」と聞いて、へーえ、そうなんだ！

マルティナフランカはイトリア谷を挟む様に反対(南方面)にあります。バロック建築、ロココ調の装飾も見られる大きく立派なドゥーカレ宮殿は今現在市役所になっている。そして高台からの谷を挟んでの眺めは、遠くに今までめぐって来た小さな町も見え、中世の人々も同じ景色を見ていたのだろう。

素敵な小さな町めぐりは私の心もウキウキでした。

マテーラの宿は洞窟のホテル。狭い所にあちらこちら階段での移動。不思議な空間があり、面白い。テラスからはダイナミックなグラヴィーナ渓谷の崖や斜面を利用しての洞窟住宅サッシがワイドスクリーンの様に眺める事が出来る最高な場所。 マテーラ泊

8/26(日)

テラスでの朝食は今までこんな経験は無かったと思うくらいの景色を見ながらの食事。贅沢な場所と時間です。

サッソ・バリサーノ、サッソ・カヴェオーソ、二つのサッシ地区を見学。

雄大なパノラマを見ながらの見学は古い時代の歴史、宗教の迫害などの時間を経て、今は観光客が多く訪れる場所となった。

坂道を上がったたり下ったりで結構疲れます。

ランチは地元料理の質素な材料での農民料理だがどれも美味しかった。

団長さんはグラヴィーナ溪谷を挟んでの対岸にある更に古い洞窟住宅（今はもうかなり壊されている。）場所まで溪谷を下りて崖を登りきった所に行きたかった様子でしたが、溪谷の川を渡る橋が壊れていて現在は通行止めになっているとの事で、対岸行きは中止。膝痛の私は内心ホッとしました。（笑）

マテーラ泊

8/27(月)

朝マテーラのホテルからサレルノの港まで車で移動。

一泊分の手荷物を持ち、トランクは車でそのままソレントへ。

サレルノから船でアマルフィへ。船は多くの客で混んでいた。

団長のこだわりの一つである、アマルフィ海岸を船で行く。暑い日差しを受けながら、海から見る海岸線の景色も興味深いものでした。

想像していたよりもこの辺りの地形はかなりの断崖で少しの土地に色とりどりの建物がへばりついている状態で、これが自然の沿岸部と住居との美しい融合なのかと・・・思う。

船で着いたアマルフィの海岸では人々が色とりどりの水着を身につけキラキラする太陽の下で夏を楽しんでいた。バスで30分くらいの標高350mの切り立った断崖の上にある小さな集落、ラヴェッロのヴィッラ・ルーフォロに行く。綺麗に手入れされた庭園で、ここでワーグナー音楽祭が行われるとの事、目を下にすると真下は青々とした海。駆け足で見学をし、直ぐにアマルフィに再びバスで戻る。アマルフィの町は思っていたよりも小さな所でした。

しかし、大聖堂は立派で素晴らしく、大きな存在でアマルフィの10世紀以降の偉大な経済力を象徴していた。

町の中心にある坂道を上がり「紙の博物館」で紙すき体験をする。日本の和紙の美濃市とは姉妹都市だそうです。

夕食は陣内秀信先生オススメの「イル・テアトロ」にこやかなお婆ちゃんのお店で、陣内先生の写真が壁にかけてあってビックリ！

陣内先生はヴェネツィアだけでなくアマルフィの名誉市民にもなっていてイタリアと日本との架け橋の人物である。

沢山の地元料理とワイン、最後は名物のレモンチェッロも飲み干し、皆ほろ酔い気分で予

約をしていた車に乗り込む。標高700mくらいのアジェーローラへの急峻な坂道を身体が右、左と揺さぶられながらエンジンの音をかき消すぐらいの大声でイタリアの聞きなれた歌を唄いながら車は上がって行く。皆クレージーになっていた。

宿は民宿で女将さん好みなのか、可愛い花模様をあしらった部屋だった。

アジェーローラ泊

8/28 (火)

今日は朝から、日本ではあまり知られていない断崖絶壁のトレッキングコース「神々の道」をカッコイイ男性ガイドと海に向かってアマルフィ海岸の西、プライアーノの町まで、約700mを下るコースを歩く。

ここの地形は急峻な崖で狭い段々畑にブドウやその他の作物を植えているのだが、手入れもさぞかし大変だと思う。

昔、船にも乗れなかった農民が片道3日間かけてナポリまで行商に出かけ、又戻って来ると言う険しい道です。神様も大変な思いをして歩いたのでしょうかね・・・？

私達の歩きも海にこのまま飛び込むみたいに階段状の道を下る。(昨晚車で坂道を上がった分、今日は足で山道を時間かけて下るのである。)

ガイドさんが丁寧に英語で地形、植物等の話をしてくれてNさんが簡単に通訳してくれる。途中で大きなこんもりとした木の15cmくらいの黒っぽいサヤを拾い、「この中の種一つが一カラット(0,2g)だよ!」と・・・。何とあのダイヤモンドの重さの単位がこの種の一粒だとは・・・。昔の人達は粒が揃ったこの種を重さの起源としたそうです。イタリア語でこの植物を「カラボー」(カルボ)と言い、後で日本に帰ってから調べたら日本名では「イナゴマメ」と言うそうです。サヤの内側の果肉を食べると甘く美味しい味でした。

ゆっくりと3時間かけて小さな海岸の小奇麗な階段状の町プライアーノまで下る。

海近くの素敵なレストランでガイドさんオススメ、地元の魚介を使っただけの料理とデザートをたっぷり食べる。

予約をしていた車で更に西のポジターノの海岸へ。ポジターノの海岸も海で過ごす観光客で賑わっていた。

ポジターノの町も色とりどりの建物や教会が段丘へと連なりイタリアでは人気のリゾート地でお土産屋さんも沢山あり、迷路の様にとこ狭しと並んでいる。

今日の最終地ソレント行の船を待つまでそれぞれ思いのまま過ごす。

この町は麻が名産なのか、麻で出来た服が沢山並んでいたが何も買わなかった。今では買ってくれば良かったと後悔しています。(笑)

日本に帰ってから分かった事ですが、団長さんのこだわり、サレルノからこのソレントまでの約40kmの海岸線は「コスティエラ・アマルフィターナ」と言って世界で最も美しい海岸の一つであると・・・。

車で行けば簡単な所を、船から海岸線を眺めながらの移動は贅沢で大変意義のある旅だった事を感謝しております。

ソレント着、ここも断崖絶壁の上に町があり、港から1€でエレベーターを利用し上がる。頭の中は「帰れ、ソレント」の曲が鳴り響く。

荷物だけが一昨日既に着いているホテルに私達も無事に着く。

今晚の夕食は胃袋の安息日にしてレストランには行かず、隣のスーパーで食料を簡単に買い、ホテルのベランダで食べる。

ソレント泊

8/29 (水)

待望のポンペイ見学、今日も暑い日差しを受けての見学。

ポンペイはあまりにも有名ですが私の為に少しおさらいをしてみます。

ポンペイは紀元前より原住民が溶岩台地の丘に住み着き、その後ギリシャ人や山岳民族等が政権をにぎっていた。

その後ローマ帝国の支配を受け、自由な商業活動が認められ、ワインやオリーブオイルの生産で経済的発展をつけ公共施設や私邸などが建設された。ローマのスッラ将軍によってローマの同盟市となりその後私達が今観光している円形闘技場や劇場が設立された。

繁栄を続けていたが79年8月24日、歴史的な大惨事ヴェスヴィオ火山の噴火でポンペイの時は止まってしまった。その一年前には大地震があったそうです。

公共広場、フォロから真正面に見えるヴェスヴィオ火山、標高1281mは噴火の前は富士山の様な美しい独立峰で標高2000mあったそうです。山の稜線を見れば今現在の姿からも想像出来ます。当時から山の斜面を利用してぶどう畑が沢山あったそうです。

「行こう、行こう火の山へ・・・フニクリ・フニクラ」の登山電車は閉鎖されていますが、途中までバスで行き、頑張って歩けば火口まで行けるそうです。

遺跡内の石畳と轍に思いを馳せ、残念ながら時間の関係で一部しか行けませんでした、又の機会があったら是非ともゆっくりと行きたい所です。

ポンペイは鹿児島（桜島）と姉妹都市との事。

名残惜しいポンペイを後にして車で一路ナポリへ。

ナポリの中心町から北に少し行った国立カポディモンテ美術館のそばのホテルに着く。

この美術館のコレクションはもとより建物にも大変興味がありましたが、残念な事に時間がなく訪れる事が出来ませんでした。

荷物を部屋に置き、早速ナポリの町にくり出す。人気のピザ屋、サンタ・キアラ教会の黄、緑、青色で描かれたマヨルカ焼の絵（一つ一つ歴史や物語が絵になっている。）の回廊、フニコラーレ（ケーブルカー）に乗って丘の上にあるサンテルモ城は星型の要塞でここからのナポリ湾と旧市街の眺めは素晴らしかったです。

美しいガッレリア、そして疲れた足を引きずりながら海岸線を歩き、サンタ・ルチアへ、卵城を目前にしたのに中には入らず、ナポリ湾を挟んでヴェスヴィオ山がくっきりと正面に見える団長オススメのレストランへと直行する。

「ナポリを見て死ぬ」と言うが半日では未だナポリはほとんど見ていない！

見どころは沢山あるのに・・・私は未だ死ねない！

今回の旅の「最後の晚餐」は豪勢に色々と食べ、ワインも沢山飲みました。美味しかった！

ナポリ泊

8/30 (木)

早めにナポリ中央駅に行き、お買い物タイムを楽しむ。

(駅近くのマーケットで日本ではあまり見かけないパスター袋4€で買いましたが先日、日本橋三越でイタリアン材料のコーナーで同じ物が1400円もしていました。もっと買ってくれば良かったです。)

予定通りナポリから電車でローマに行き、ローマで電車を乗り継ぎ、フィウミチーノ空港に着く。

15:15 発

8/31 (金)

10:30 無事、成田に着く。

帰りの飛行機ではただひたすら寝ていました。

南イタリアの旅は見どころ沢山の8日間では時間が足りませんでした。

古い歴史と文化と自然と人々と又の機会にゆっくりと再び触れたいと思います。

そして気さくで楽しいイタリア人気質を見習いたいものです。

「オー・ソレ・ミオ」「サンタ・ルチア」「帰れ、ソレント」「フニクリ・フニクラ」を皆で大声を出して又歌いましょう。

ちなみに「フニクリ・フニクラ」はナポリ民謡でなく鉄道のCMソングとの事です。

団長さんこだわりのアマルフィ海岸を船から見るのは必見です。

何と言ってもイタリア料理はどこのお店も美味しかった！

団長さんのこだわりと、いつも機敏なS夫妻と美味しいお料理に Grazie!

今回訪れた町と日本との姉妹都市をメモします。

アルベロベッロ	岐阜県白川村
アマルフィ	岐阜県美濃市
サレルノ	岩手県遠野市
ボンペイ・ナポリ	鹿児島県桜島
ソレント	三重県熊野市
ローマ	東京都